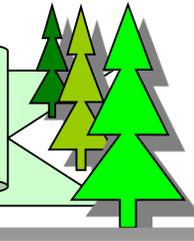


# 街路樹



「算数・数学の授業改善の視点と実践例紹介」

ソーシャルスキルトレーニング・ペアレントトレーニングのご紹介  
～教育相談室～

$$\sqrt{2} + \sqrt{8} = \sqrt{10}?$$

前時までには学んできた乗法や除法の計算の仕方を生かし、思わず上記のように答えてしまった子どもたち。次の瞬間、教師はどのような対応をとることが望ましいのでしょうか。



- ① 間違い! もう一度考えなさい!!
- ② おしい。√8って形を変えるとどうなるかな?
- ③ どうしてそう考えたのかな?

さて、どのように問い返しをしたら子どもたちの学びが深まっていくのか考えてみましょう。①の問い返しは、算数や数学の価値が正答にのみある価値観の問い返しになります。また、②の問い返しは、子どもたちが考える時間を奪ってしまっています。算数・数学の楽しさは、なぜその答えになるのかを試行錯誤をしながら、論理的に考えることにあります。そういった意味で①や②の問い返しは適切ではありません。③のような問い返しをすることで、数学的な方法について考えを深めていくことができるのではないのでしょうか。

さて、授業が進み、√8を2√2に形を変えることで計算ができそうだと気付いた子どもたち。そこでは、「√2 + 2√2 = 2√2」と「√2 + 2√2 = 3√2」の2つの考えが出てきました。教師はどのように問い返したらいいのでしょうか。

- ① 違う! 1√2 + 2√2で3√2でしょ!!
- ② おしい。だって、文字式の時は、X + 2X = 3Xだったよね。
- ③ どうしてそうなるのですか?

①や②の問い返しについては、適切ではないことが分かりますね。③のように問い返すことで、数式が成り立つ意味を明らかにしていくことができるかと思えます。

子どもたちの考えを真摯に受け止め、価値付けるとともに、その考えを問い返すことで、学級全体で学びを深めていくことができるようにしたいですね。

【ふくしまの「授業スタンダード」より】  
【授業提供 調査研究委員会算数・数学部会】

教育相談室では、面接相談および電話相談を行っています。面接相談後は、教育支援室における判断の下、必要に応じて発達検査の実施や総合教育センターまたは医療創生大学での継続カウンセリング、月1回予定されている専門医によるDr.面談などに繋いでいきます。さらに、総合教育センターのカウンセラーと協力し、小学校高学年児童を対象とした、ソーシャルスキルトレーニング(SST)、その保護者の方々にペアレントトレーニング(PT)を年間10回実施しています。教育相談員面談やカウンセラーによるカウンセリング、Dr.面談においてSST・PT参加の提案があり、保護者とお子さんが希望した場合に行うものです。

年間1500件あまりにのぼる相談の中、周囲との人間関係に困難さを感じるという内容が多くみられます。SSTは、家族や友だち、日々の生活でふれあう人々とどのように接していけば、トラブルや誤解を生むことなく良好な関係を築いていくことができるのかを学ぶ機会です。

先日のSST(第2回)では、「じょうずな聞き方」について学びました。①人の話は最後まで遮らずに聞く②相づちを打ちながら聞く、が聞き方のポイントでした。SST(第1回)の「じょうずな話し方」で学んだ、①ちょうどよい大きさの声で話す②よい姿勢で話す③顔と身体の向きに気をつける、等を合わせて対話することによって、お互い気持ちよく話ができて、会話がスムーズに進んでいくことになります。これらのことを、指導者の手本を下にロールプレイやゲームを通して実践し、体験的に学んでいきます。

同時に別室では、良好な親子関係を保つための具体策を知りたい保護者の方々が、PTを行っています。参加した方からは、「子どもの好ましくない行動に対する肯定的な声のかけ方やほめ方のコツなどを学び、それらを実践することで関係が改善していくことを実感している」といった声を聞くことができます。

年間を通して参加を継続していくことは簡単ではありませんが、その効果は大きく、今後も活用を促したい取り組みです。



## 「常勤講師授業研修より」



常勤講師・養護助教諭(経験3～5年目の先生方)を対象にした「常勤講師授業研修」では、不祥事を起こさないための「教職員としての服務・勤務」の講義と、授業の質の向上を目指した模擬授業を実施しています。

はじめに「教職員としての服務・勤務」について、市教育委員会学校教育課管理主事が講義を行いました。具体的な場面・状況を設定し、我々教職員はその状況に対してどのように判断し、どう行動すべきかについて、小グループで話し合っていました。研修者からは「改めて守るべきことや気をつけなければならないことを確認できた」「子どもたちの信頼を失わないためにも、自己を律することが重要だ」といった感想が出るなど、教職員としての在り方について再認識する機会となりました。

次に、各会場に分かれて模擬授業に取り組みました。指導案や教材・教具を持ち寄り、お互いの授業を見合い、よりよい授業を目指して協議しました。3～4名程度の班に分かれて行うことにより、活発な意見交換や情報共有ができました。「改善点が見つかることはとてもプラスになった」といった肯定的な意見が多く見られました。特に養護助教諭の先生にとっては、同じ立場の先生同士で集まる機会も多くないため、「他の先生の授業を見ることができてとてもよかったです」という声が聞かれました。

模擬授業に取り組むことで「自分の授業スタイル」や「よさ」に気づいたり、「改善点」を発見することができたりと、充実した研修となりました。また模擬授業を受ける「子ども役」も体験することから、「どう指導するか」といった「授業者目線」だけでなく、「子どもはどう受け止めるか」「子どもの目にどう映るか」といった「子ども目線」からの学びも多い研修となりました。

